

これからの 精神科栄養

特集にあたって

令和5年(2023年)の精神疾患を有する外来患者数は約576.4万人と推計されており、私たちにとって身近な疾患となっています。精神科医療では入院医療中心から地域移行へシフトして、平成29年(2017年)からは精神障害にも対応した地域包括ケアシステムが進められています。そのため、今後は地域の幅広い職種が、いままで以上に協力した支援を行うことが必要となり、精神疾患をもつ対象者に管理栄養士・栄養士が栄養支援を行うケースは増加することが予想されます。

一方、精神疾患と栄養に関する研究報告が多く集まり、精神科において栄養や食事が注目されることが多くなってきました。そのような状況の中で、精神科領域における栄養の専門性として、一定のスキルをもった管理栄養士・栄養士に対して精神科の認定栄養士制度が創設されて活躍しています。

本特集では、このような状況を踏まえて「これからの精神科栄養」と題して、栄養支援について最初に精神栄養学の最新情報を解説していただきます。次に一般急性期病院、精神科病院、社会復帰とそれぞれの視点から栄養支援を紹介していただきます。また、栄養支援に役立つGLIM基準や栄養管理プロセスの精神科での活用について触れ、最後に精神科の認定資格について情報提供いただきます。この特集が多くの方々の栄養支援の一助となれば幸いです。

国立病院機構東京病院 栄養管理室
阿部裕二